

[トップページ](#) > [医業経営情報](#) > [WEB NEOSYS](#) > [WEB NEOSYS フォーカスより良い医療の実現に向かってー](#) > **No03: 地域包括ケアの要として退院後もつながるネットワークを構築**

[+ブックマークに追加](#)

医業経営情報

医療現場の今を知り、明日の経営につなげる

WEB NEOSYS

TOP

医療連携・事例紹介

シリーズ連携

Interview

情報誌NEOSYS・連載記事

フォーカス

フォーカスより良い医療の実現に向かってー



社会医療法人社団慈生会 等潤病院

地域包括ケアの要として 退院後もつながるネットワークを構築

東京都足立区 社会医療法人社団慈生会 等潤病院 理事長・院長 **伊藤 雅史** 先生

伊藤雅史先生が社会医療法人社団慈生会等潤病院（164床）の理事長・院長に赴任したのは、2007年4月でした。当時は新病院の建設が佳境に入る一方で組織の疲弊と硬直化に直面しており、組織存続とマネジメント不在の危機感を持ったそうです。「自分たちはどういう医療で地域に貢献できるのか」を問い直す改革が始まりました。

■ 地域の医療ニーズを視野に組織改革を図る

同院が所在する足立区は、地方都市に匹敵する約67万人という人口を抱え、高齢化率は22%を超えます。その一方、特定機能病院や公立病院の空白地帯であり、伊藤先生は当初から「高齢者への医療提供と救急・急性期医療が病院存続の要になる」という信念を抱いていました。2007年は第五次改正医療法が施行され、4疾病5事業について医療機関の分化・連携と地域包括ケアの推進という厚生労働省（厚労省）の方針が明確になった年でした。伊藤先生はこれを受け、“急性期医療”を中核としたDPC対象病院をめざした体制づくりに着手します。当時は看護基準の10対1すらクリアできない状況でしたが、2年のうちにその要件を満たし、09年には足立区初のDPC対象病院に認定されました。また、11年には公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、同年5月に認定を受けています。さらに、手薄だった腎臓・循環器領域に対応すべく、血液浄化センターと脳神経外科を新設。320列のCTや1.5テスラのMRIなど最先端の画像診断機器を導入し、地域の救急医療に貢献する姿勢を示しました。13年4月からは心臓血管センターが稼働。「惜しみなく設備投資をすることで、専門医を募集しやすい環境が整いました」と伊藤先生は言います。

マネジメント面では、“職員満足度調査”(図・表1、2参照)を実施し、その結果浮き彫りになった“明確な就業規則と給与体系の不在”、“不透明な人事考課”という課題を解消するために、透明性を重視した職員の評価制度を策定しました。これは、本人評価(一次評価)、直属の上司の評価(二次評価)を行った上で、職長クラスの判定会議で最終的な評価を決定するという仕組みです。この他、夜勤やフルタイム勤務ができなくても、看護師のキャリアを切らすことなく正職員として採用する“短時間正職員制度”、“夜勤制限正職員制度”や“院内保育室の24時間稼働”など、子育て中の看護師や女性医師が安心して働ける職場づくりを徹底。こうした取り組みが評価され、等潤病院は11年度の東京ワークライフバランス認定企業に選ばれています。



敷地内にある院内保育室では、6名の保育士が24時間交代で職員の子どもを預かっています。

■ 統合ヘルスケアネットワークで地域包括ケアの要へ

院内改革と並行して行ったのは、統合ヘルスケアネットワーク(Integrated Healthcare Network; IHN)の構築でした。IHNは、一つの医療事業体が急性期から回復期・維持期、終末期の異種医療サービスを継ぎ目なく提供する体制です。医療ユニット間のシナジー効果で中核事業体の経営を安定させる一方、退院後も患者さんと家族のニーズにきめ細かい対応が可能な医療モデルとして注目されています。同院ではまず、回復期リハビリテーションの充実と在宅・訪問診療機能の強化に取り組みました。通所施設においてもリハビリテーション機能をさらに充実させています。14年度には“家に帰ろう”をコンセプトにした介護老人保健施設『イルアカーサ』が完成する予定です。「慈生会の『地域とともに生きる・慈しみのトータルヘルスケア』という理念には、地域住民の健康管理から急性期、回復期・維持期、そして家での看取りまでをトータルにケアする、という意味と共に、それを実現するためのIHNを構築して継ぎ目のない医療サービスを提供するという内容も含んでいます」と伊藤先生は言います。



災害時救急では“消防活動二輪車:クイックアタッカー”との連携が不可欠です(2013年6月16日、慈生会等潤病院健康まつりにて)。

さらに、「将来は住民の切実なニーズである小児救急病院やサービス付き高齢者向け住宅の開設も視野に入りたい」とのことで、IHNの強みを生かした腰の強い医療事業体の誕生は目前のようです。12年4月、同院は東京都で6番目となる社会医療法人として認定されました。地域医療への貢献と経営の透明性が名実ともに認められた結果であり、地域包括ケアの要として期待が寄せられています。

図 社会医療法人社団慈生会が実践するトータルヘルスケア

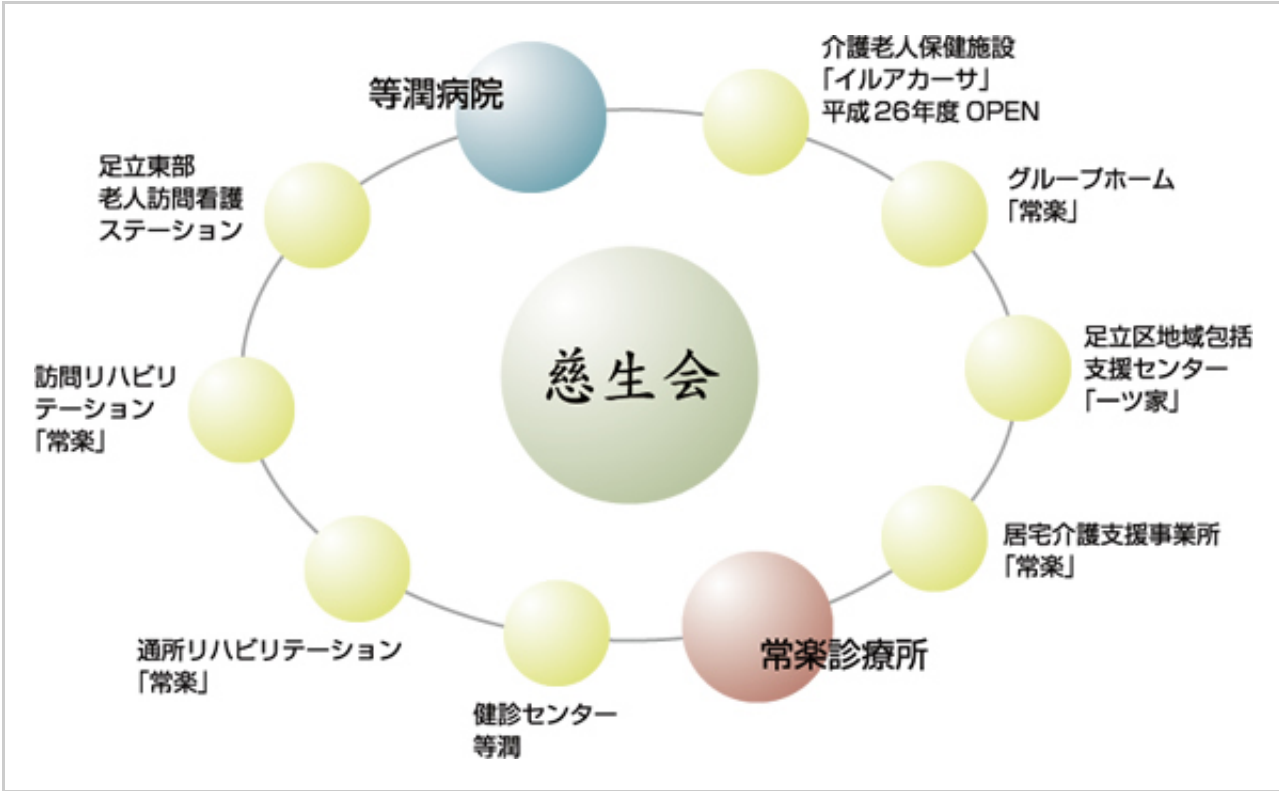


表1 等潤病院の職員満足度調査(2007年と2012年の比較)

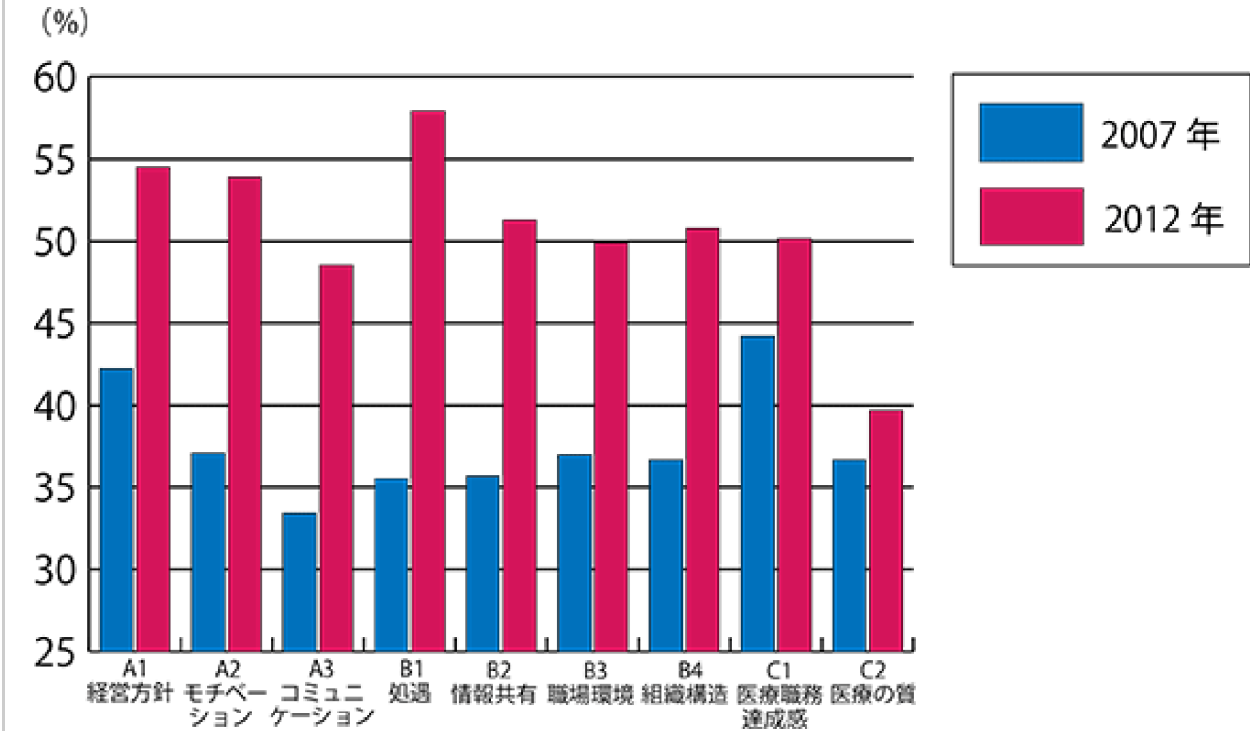


表2 等潤病院の職員満足度調査からみる職場環境の改善度

満足度 (偏差値)	2007年	2012年	改善度 (%)
A1 経営方針	42.2	54.5	29.2
A2 モチベーション	37.1	53.9	45.2
A3 コミュニケーション	33.4	48.5	45.0
B1 処遇	35.5	57.9	63.1
B2 情報共有	35.7	51.3	43.9
B3 職場環境	37.0	49.9	34.7
B4 組織構造	36.7	50.8	38.6
C1 医療職務達成感	44.2	50.2	13.5
C2 医療の質	36.7	39.7	8.2

(2013年6月取材)

[トップページ](#) > [医業経営情報](#) > [WEB NEOSYS](#) > [WEB NEOSYS _ フォーカスーより良い医療の実現に向かってー](#) > [No03 : 地域包括ケアの要として退院後もつながるネットワークを構築](#)  [ブックマークに追加](#)